



標高差 0m～1,400mのまち 愛媛県西予市

四国の西南部に位置する西予市の特徴は、
海抜0m～1,400mの標高差を舞台とした自然環境。地形・地質の多様性に恵まれ、柑橘をはじめ魚介類・果実・乳製品・肉類など多くの特産品があります。また、豊かな自然と人々の生活文化や歴史が評価され市内全域が「四国西予ジオパーク」として認定されました。ゆったりと流れる癒しの時間と、人々の温もりがここにはあります。



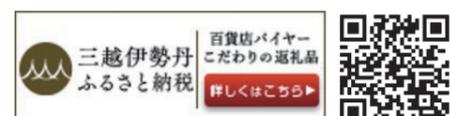
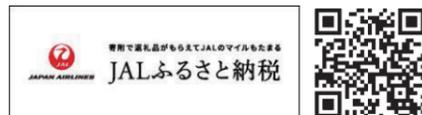
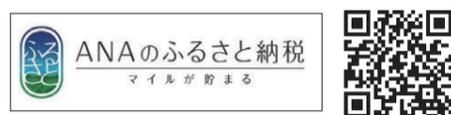
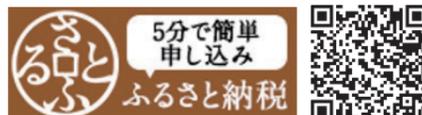
ふるさと納税サイトに
アクセス！
応援よろしくお願ひします



海・里・山のまち
四国愛媛 西予市
ふるさと
納税

西予市公式 LINE

西予市とラインで
つながりませんか。
お友達登録お願ひします



日本初の産科女医 楠本イネを育んだ町

第12回 愛媛県西予市 お伊ネ賞事業

令和7年
1月12日 (日)
西予市教育保健センター
4階大ホール
13:30～

主催／西予市・(一社)愛媛県医師会
後援／(公社)日本医師会・愛媛大学医学部・(一社)西予市医師会

第1部 第12回 西予市お伊ネ賞事業表彰式

1. 開会
2. 主催者あいさつ
3. 来賓紹介
4. 受賞者の発表
5. 審査総評
6. 表彰状贈呈
7. 受賞者あいさつ
8. 閉会

第2部 シーボルト博物館と宇和先哲記念館との博物館協定調印式

第3部 講演会

[第1部] 西伊予には明治初期から女性医師が活躍できる場があった
[第2部] 眩しさに潜む光過敏の健康問題

講師 若倉 雅登氏
(井上眼科病院(東京・御茶ノ水)名誉院長、作家)

西予市お伊ネ賞事業



「読書をするイネ」
大洲市立博物館所蔵

趣旨

シーボルトの娘で日本初の産科女医「楠本イネ」を育んだまちとして、医学研究や医療活動に躍進する女性を表彰し、奨励することで西予市の全国発信とともにお伊ネのまちづくりで地域の活性化を図る。

目的

- ・女性医師を奨励し、社会における女性活躍進へつなげる
- ・活躍が期待できる地域における女性医師を奨励する
- ・これから芽が出ようとする地域における女子医学生を奨励する

主催者あいさつ



西予市長
管家 一夫

第12回西予市お伊ネ賞事業の開催にあたりご挨拶申し上げます。

平成24年度から始まりましたお伊ネ賞事業は、シーボルトの娘、楠本イネの偉業を継承し、その志を受け継ぐ全国の女性医師・医学生を奨励するものとして今年度で第12回を迎えました。受賞者の皆様を称えますとともに今後の活躍をお祈りいたします。

あわせて、今回はイネが背中を追った偉大な父シーボルトゆかりの「シーボルト博物館と宇和先哲記念館との博物館協定調印式」を開催する運びとなりました。

開催・後援としてご協力、ご支援いただきました関係機関をはじめ、多くの皆様にご参加いただき、開催できますことを心から厚くお礼申し上げます。

現在、当市では医療福祉改革に取り組んでおり、地域の特性やニーズに応じた医療サービスを身近なところで誰もが受けられる環境の整備を進めているところであります。

この事業が健康を維持し、生き生きと暮らしていけるまちづくりにつながるものとなりますことを願っております。

「お伊ネ医師によせる思い」

西予市卯之町は愛媛県でも最も文化的に成熟した町です。幕末維新の回天の牽引に数多くの蘭学者が大きな役割を果たしています。シーボルトの娘 楠本イネは、卯之町の二宮敬作のもとで医学研修を行い偉大な足跡を残しました。しかし、帰国してしまった父親の寵愛を受けることなく育ったところに大きな運命を感じます。人間は運命に翻弄されることもあるし、一方では自分の強い意志で運命を切り拓きもできる。お伊ネさんは、そう語っているように思います。

「お伊ネ賞」は西予市が女性医師の活躍を顕彰する事業です。さまざまな困難を乗り越えて地域医療や医学の発展に貢献をされている女性医師の活躍に光をあてています。社会が広く女性医師を受け入れ、現代のテーマでもあるワークライフバランスのモデルとして、この「西予市お伊ネ賞事業」を位置付けています。



一般社団法人
愛媛県医師会
会長
村上 博

第12回西予市お伊ネ賞受賞者

経歴



全国奨励賞

独立行政法人国立病院機構
宇都宮病院

滝田 純子氏

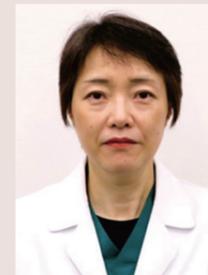
東京大学法学部卒業、群馬大学医学部卒業（学士入学）、平成22年より国立病院機構宇都宮病院外科勤務。現在病棟診療部長。平成26年より栃木県医師会常任理事、医療事故調査制度・医事紛争・医療安全・男女共同参画担当。同年より日本医師会男女共同参画委員5期10年、現在6期目。日本医師会医療安全対策委員1期2年、現在2期目。特に医療安全全般と医療界におけるDEI(※)に取り組んでいる。

2023年日本医師会優功賞受賞

※Diversity, Equity and Inclusionの略。

職場や社会全体で多様な背景や視点を持つ人々を尊重し、すべての人が平等に参加できる環境を作ること

経歴



地域奨励賞

いわもと婦人科クリニック

岩本 麻里氏

愛媛大学医学部卒業、同大学の産婦人科学教室に入局。西予市立野村病院や市立宇和島病院、西条中央病院で産婦人科医として、緩和医療にも携わり、キャリアを重ねる。

産婦人科が長期間不在であった地元の西予市に戻り、令和2年いわもと婦人科クリニック開設。

診療のみならず、地域の女性や女子児童・生徒の悩みや相談に応じ、社会貢献している。

西予市介護認定審査会委員、愛媛県産婦人科医会副会長・愛媛県包括的性教育事業コアメンバーなどを務め、地域医療へ貢献している。

経歴



医学生奨励賞

愛媛大学
医学部5年

清水 杏実氏

現在、臨床実習などの勉強に取り組んでいる。学業では常にトップクラスの成績を修め、臨床実習でも患者診察などに積極的に取り組んでいる。愛媛大学医学部小児循環器チームのモンゴル現地診療に学生として参加、米国ハワイ大学医学部の臨床ワークショップにも参加し、幅広い視野に立って多くの医療を学んでいる。

バレーボール部に所属し、活発に活動し、先輩後輩とも良好なチームワークを築いている。

将来は、小児科医として、子どもたちが元気あふれることを夢見て、勉強に励んでいる。

講演会

第一部：「西伊予には明治初期から女性医師が活躍できる場があった」
第二部：「眩しさに潜む光過敏の健康問題」

講師 若倉 雅登氏

(井上眼科病院(東京・御茶ノ水)名誉院長、作家)



講師プロフィール

1949年東京生。父は川之江(現四国中央市)出身の文芸評論家進藤純孝。80年北里大学大学院博士課程修了。グラスゴー大学シニア研究員、北里大助教授を経て2002年井上眼科病院院長、12年から現職。14年NPO法人目と心の健康相談室を立ち上げた。東京大、慶應義塾大非常勤講師、北里大客員教授、日本神経眼科学会理事長、日本心療眼科研究会共同代表を歴任。神経眼科、心療眼科を専門とする診療、著作・講演活動のほか、明治時代の女性医師を描いた医療小説もある。

主な著書：「三流になった日本の医療」(PHP研究所)

「健康は眼にきけ」「絶望からはじまる患者力」(春秋社)

「心療眼科医が教える その目の不調は脳が原因」(集英社新書)

「心をラクにする目目の不調が消えてゆく」(草思社)

医療小説3部作：「高津川」(島根県益田出身右田アサ)、「茅花流しの診療所」(愛媛県内子出身尾崎マサノ)、「蓮花谷話譚」(女人禁制の高野山の医師花谷保枝)(以上青志社)